# 群馬県の地震概況 (令和7年6月)

\* 以下の資料は速報としてまとめたもので、後日の調査で変更されることがあります。

#### 1. 地震の概況

6月に群馬県内で震度1以上を観測した地震は5回(5月は4回)で、県内で観測した最大 震度は2でした。(表1)

25 日 13 時 51 分 茨城県沖の地震(深さ 54km、M4.2)により、茨城県東海村で震度 4 を観測したほか、東北から関東地方にかけて震度 3 ~ 1 を観測しました。

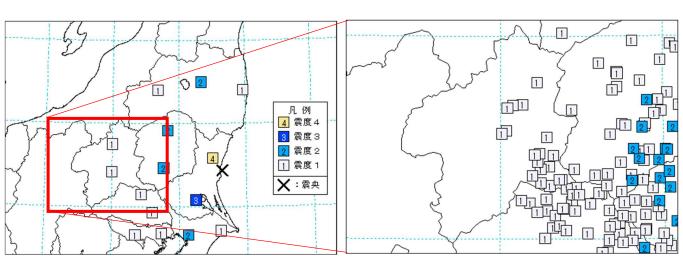
群馬県内では、沼田市・片品村・前橋市・桐生市・伊勢崎市・太田市・館林市・渋川市・板 倉町・千代田町・大泉町・邑楽町で震度1を観測しました。(図1)

27日8時56分 茨城県北部の地震(深さ56km、M4.3)により、福島県、茨城県、栃木県の広い範囲で震度3を観測したほか、東北から関東地方にかけて震度2~1を観測しました。

群馬県内では、片品村・桐生市・伊勢崎市・太田市・館林市・渋川市・板倉町・大泉町で震度2を観測したほか、広い範囲で震度1を観測しました。(図2)

		1222			1. 18 .	, ,,		• ,,	, ,		
最大震度	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7	合 計	
										_	

表1 最大震度別の地震回数(令和7年6月1日 ~ 6月 30 日)



(1)地域別震度分布

(2) 観測点別震度分布

図1 茨城県沖の地震(6月25日13時51分)の震度分布図

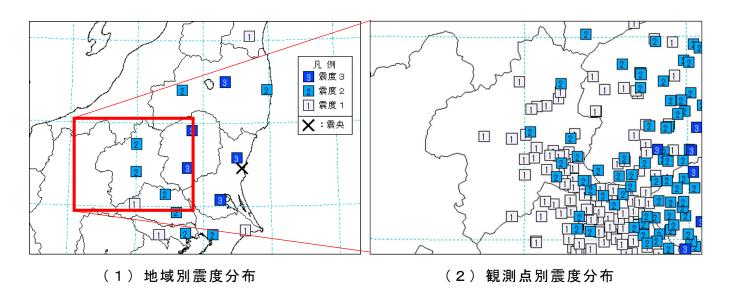


図2 茨城県北部の地震(6月27日8時56分)の震度分布図

## 2. 群馬県とその周辺の地震活動

図3は6月に群馬県及び周辺域で発生した地震の震央分布図、図4は東西方向の断面図です。群馬県で震度1以上を観測した地震(震央が図3の範囲内)について吹き出しをつけています(注:図3及び図4の括弧内の番号は「表2 地震の詳細」の番号に対応しています)。

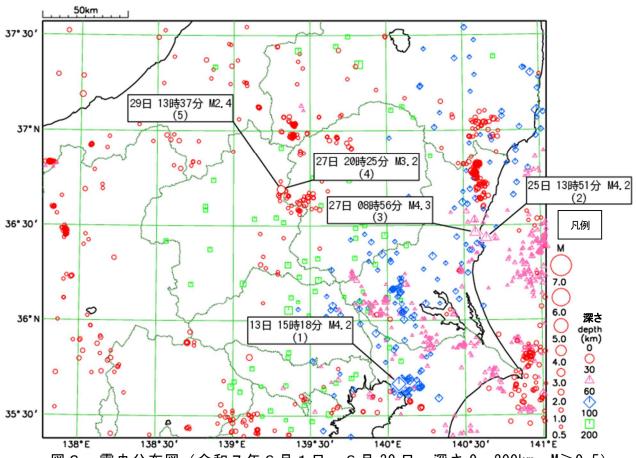


図3 震央分布図(令和7年6月1日~6月30日、深さ0~200km、M≧0.5)

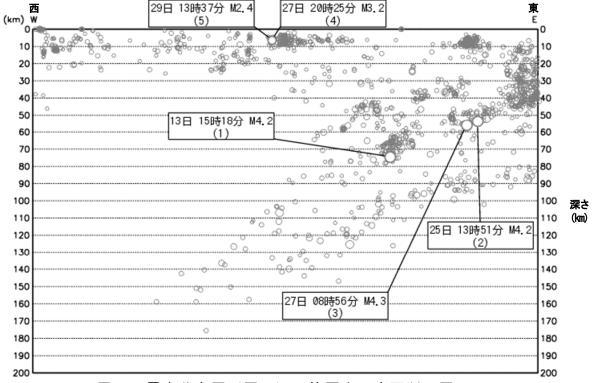


図4 震央分布図(図3)の範囲内の東西断面図

## 3. 群馬県の地震の詳細

表2は、群馬県で震度1以上を観測した地震の詳細です。

(\*印は群馬県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です)

表2 地震の詳細(令和7年6月1日 ~ 6月30日)

番号	震源時	震央地名 緯 度 経 度 深 さ 規模 全国	の最大震度
	日 時 分	各地の震度	
1 13日15時		千葉県北西部 35°40.0'N 140°04.2'E 75km M4.2 (千葉県、東京都、神奈川)	県、静岡県)震度2
	13日15時18分	震度 1: 沼田市西倉内町,沼田市白沢町*,前橋市粕川町*,桐生市錦町,桐生市桐生市黒保根町*,桐生市新里町*,伊勢崎市西久保町*,伊勢崎市東太田市粕川町*,館林市城町*,渋川市吹屋*,渋川市赤城町*,板倉町群馬明和町新里*,千代田町赤岩*,大泉町日の出*,邑楽町中野*,あ	.町 * 订板倉
2 25日13時51分		茨城県沖 36°26.0'N 140°38.7'E 54km M4.2 (茨	城県) 震度4
	震度 1: 沼田市西倉内町,沼田市下久屋町*,沼田市白沢町*,片品村鎌田*,前桐生市元宿町*,桐生市黒保根町*,桐生市新里町*,伊勢崎市今泉町伊勢崎市西久保町*,伊勢崎市境*,伊勢崎市東町*,太田市西本町*太田市粕川町*,太田市大原町*,館林市上三林町*,渋川市吹屋*,流板倉町板倉,千代田町赤岩*,大泉町日の出*,邑楽町中野*	* ,太田市浜町 *	
3 27日08時5		茨城県北部 36° 27.6′ N 140° 34.4′ E 56km M4.3   (福島県、茨城!	県、栃木県)震度3
		震度 2: 片品村鎌田*,桐生市元宿町*,桐生市黒保根町*,伊勢崎市今泉町* 伊勢崎市西久保町*,太田市西本町*,太田市浜町*,館林市上三林町 板倉町板倉,大泉町日の出*	
	27日08時56分		,前橋市駒形町* *,高崎市高松町* 市東町* ,渋川市吹屋*
4	27日20時25分		馬県) 震度2
		震度 2: 片品村鎌田* 震度 1: 沼田市西倉内町,沼田市尾瀬高等学校,沼田市下久屋町*,沼田市白沢 沼田市利根町*,桐生市黒保根町*	町*
5	29日13時37分		馬県) 震度1
	- '-	震度 1:片品村鎌田*	

番号に※印を付した地震については、近接した地域で、ほぼ同時刻で発生した地震であるため、震度の分離ができないことを示す。

- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。
- ・本資料中で使用している地図は、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』 を使用して作成している。

全国及び地方別の地震概況や過去(1919年から2日前までの期間)に震度1以上を観測した地震を県別・観測点別に検索する震度データベース検索なども、気象庁ホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

〇各月の地震活動のまとめ(地震・火山月報(防災編))

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/gaikyo/index.html

〇震度データベース検索

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php

#### ★ 一口メモ ★

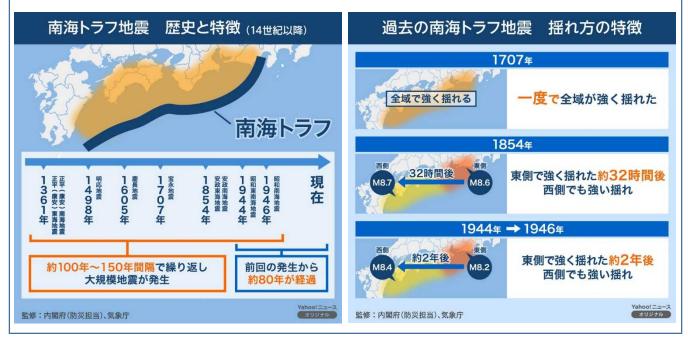
#### 〇南海トラフ地震について

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「**南海トラフ**」といいます。南海トラフ沿いのプレート境界では、歴史記録から過去に大規模地震が繰り返し発生してきたと考えられています。これらの地震を「**南海トラフ地震**」といいます。

それぞれの地震の発生状況を詳しくみていくと多様性があることがわかります。宝永地震 (1707年)のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したことがあるほか、安 政東海地震 (1854年) や安政南海地震 (1854年) のようにマグニチュード 8 クラスの大規模 地震が隣接する領域で時間をおいて発生したこともあります。

また、南海トラフ地震は、おおむね 100~150 年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから約 80 年が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

なお、必ずしも東側で先に大規模地震が発生すると決まっているわけではありません。西側 半分の領域で先に大規模地震が発生する可能性もあります。



# 『群馬県の地震概況』の取り扱いについて

- ◎ 前橋地方気象台 2025
- ① 本資料をそのまま印刷すること、ファイルの 形で第三者に提供することは、利用目的が教 育または行政に資するためであって、かつ非 営利である場合に限り可能とします。
- ② 本資料に含まれるデータ等を利用した場合 は、「前橋地方気象台提供」を明記して下さ い。

群馬県の地震概況 令和7年6月号 令和7年7月11日発行 編集・発行 前橋地方気象台 前橋市大手町2-3-1 前橋地方合同庁舎 電話 027-896-1220